

【専門分野 I】

授業科目名	看護学概論		
担当講師			
実務経験の有無	有	無	実務経験内容 看護師
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 年次前期
目的	看護の概念を理解し、看護の本質、役割、機能を学ぶ。また人間に対する見方、考え方を学び、人間の生命を尊重し、看護倫理に基づいた専門職業人としての役割、責任を認識することができる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の概念を理解し、それらの変遷を学び看護の本質、役割、看護の機能を理解できる。 2. 看護の対象である人間の統合的な理解を深めるために、人間に対する見方、考え方を学び、社会から求められている看護の役割・機能についての理解を深めることができる。 3. 人間の生命を尊重し、看護倫理に基づいた専門職業人としての役割、責任を認識できる。 		
回数	授業内容		授業方法
1	看護学概論とは、看護とは何か、看護の本質、看護の歴史		講義
2	課題図書「看護の力」を用いたワーク		講義・GW
3	看護の役割と機能、看護が果たす役割		講義
4	看護の対象の理解：マズローのニード論、ストレス、コーピング理論		講義
5	看護覚書を読み解く (1)		GW
6	看護覚書を読み解く (2)		発表
7	健康の定義 健康と生活について (1)		講義
8	健康の定義 健康と生活について (2)		講義
9	健康の定義 健康と生活について (3)		GW・発表
10	看護の提供者・看護倫理 (1) : 看護職者としての看護倫理		講義
11	看護倫理 (2) : 看護倫理の本質としての患者の権利擁護 事例検討 (1)		GW
12	事例検討 (2)、看護倫理 (3) : 看護職者の自律性と看護倫理		発表・講義
13	看護の提供のしくみ (1)		講義
14	看護の提供のしくみ (2)、医療安全 (1) ヒューマンエラー		講義
15	医療安全 (2)、災害看護		講義
教科書 系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 看護覚え書き			
評価方法・基準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験 80 点、レポート 20 点を合わせて 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。 			

授業科目名	基礎看護技術 援助論 I		
担当講師			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	看護師
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 年次前期
目的	倫理的配慮に基づいて安全安楽な療養生活を送るための日常生活の援助技術を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境が対象に与える影響を理解し、環境調整の援助技術を身につけることができる。 2. 清潔の意義を理解し、回復への意欲を高め、療養生活を安楽に過ごすために必要な清潔の援助技術を身につけることができる。 		
回数	授業内容	授業方法	
1	看護技術とは 看護・看護技術の位置づけ、学ぶ目的 環境について（構成要素、アセスメントと調整、環境整備） 実際の場面状況の観察を通して、アセスメント・改善策を考える	講義	
2	ベッドメイキング（目的・方法、根拠、実際）	講義・演習	
3	リネンチェンジ（目的・方法、根拠、実際）	講義・演習	
4	リネンチェンジの学内演習	演習	
5	清潔援助 （皮膚・粘膜の構造、清潔の目的・効果・援助の決定と留意点、入浴援助の実際、爪切り、整容） 衣生活への援助（意義と援助の実際）	講義	
6	臥床患者の全身清拭・寝衣交換（目的・方法・根拠）	講義・演習	
7	臥床患者の全身清拭・寝衣交換の実際、ウォッシュクロス巻き方、気化熱の体験	演習	
8	全身清拭の実際	講義	
9	洗髪目的・方法・根拠と洗髪車、さっぱりさんの実際	講義・演習	
10	臥床患者の全身清拭・寝衣交換の学内演習	演習	
11	洗髪の実際（洗髪車・さっぱりさん）	演習	
12	洗髪の学内演習（1）	演習	
13	洗髪の学内演習（2）	演習	
14	整容・手浴・足浴・口腔ケア、陰部洗浄（目的・方法、根拠）	講義	
15	足浴・陰部洗浄の実際、洗髪台の使用について	演習	
教科書 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 看護がみえる Vol.1			
評価方法・基準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験は 60 点、実技試験は 40 点を合わせて 100 点満点とする。 ただし、筆記試験・実技試験ともそれぞれ 6 割以上を合格とする。 			

授業科目名	基礎看護技術 援助論Ⅱ		
担当講師			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	看護師
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 年次前期
目的	倫理的配慮に基づいて安全安楽な療養生活を送るための日常生活の援助技術を習得する。		
到達目標	食べる、排泄する、といった対象の基本的ニーズの自立が脅かされたときの身体的・心理的苦痛を理解し、倫理的配慮に基づいた食事・排泄の援助技術を身につけることができる。		
回数	授業内容	授業方法	
1	食事の基礎知識：食べることの意味、栄養状態・摂食嚥下のアセスメント	講義	
2	食事援助の基本栄養 医療施設で提供される食事、食事援助の基礎知識、食事援助の注意点	講義	
3	食事援助技術：食事援助方法を考える	講義・GW	
4	食事援助技術の実際：演習を通して、食事援助技術を実践し、評価する(1)	演習	
5	食事援助技術の実際：演習を通して、食事援助技術を実践し、評価する(2)	演習	
6	非経口摂取法について 非経口摂取とは、経鼻経管栄養法・経静脈栄養法について	講義	
7	非経口摂取の実際：経管栄養法の挿入、管理、薬液注入について	講義・演習	
8	排泄・排尿の基礎知識 排泄の意味、自然排尿のメカニズム、尿の観察と排尿のアセスメント、尿失禁	講義	
9	排便の基礎知識 自然排便のメカニズム、便の観察と排便のアセスメント、自然排便を促す援助	講義	
10	排泄の援助について：床上排泄（尿器・便器、おむつ）の援助方法	講義・演習	
11	排便困難時の援助：自然排便を促す援助、グリセリン浣腸、摘便	講義・演習	
12	排便困難時の援助技術の実際：グリセリン浣腸、床上排泄の実際（1）	演習	
13	排便困難時の援助技術の実際：グリセリン浣腸、床上排泄の実際（2）	演習	
14	排尿困難時の援助：一時的導尿と持続的導尿について	講義・演習	
15	排尿困難時の援助技術の実際：一時的導尿と持続的導尿の実際	演習	
教科書 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 看護がみえる Vol.1、Vol.2、Vol.3			
評価方法・基準 1. 出席時間数の3分の2以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験は60点、実技試験は40点を合わせて100点満点とする。 ただし、筆記試験・実技試験ともそれぞれ6割以上を合格とする。			

授業科目名		基礎看護技術 援助論Ⅲ		
担当講師				
実務経験の有無		有・無	実務経験内容	
			看護師	
単位・時間数		1 単位 30 時間		開講年次
				1 年次前期
目的		倫理的配慮に基づいて安全安楽な療養生活を送るための日常生活の援助技術を習得する。		
到達目標		<ol style="list-style-type: none"> 療養生活の安全を脅かす要因を理解し、安全管理の援助技術を身につけることができる。 活動範囲が狭まることで生じる危険や身体的・心理的苦痛を理解し、安全安楽な活動・休息の援助技術を身につけることができる。 		
回数	授業内容			授業方法
1	療養生活における安全・安楽確保 医療事故・事故防止 安全・安楽と体位について			講義 GW
2	褥瘡、姿勢・活動に関する体位 ボディメカニクス、体位変換 姿勢・体位の援助に関する安全			講義・VD 視聴
3	体位変換のデモンストレーションと練習			デモンストレーション、練習
4	移乗・移送について			講義、DVD 視聴
5	移乗・移送のデモンストレーションと練習			デモンストレーション、練習
6	体位変換の演習			演習
7	感染防止の技術の基礎知識			講義
8	車椅子・ストレッチャーへの移乗・移送、歩行介助の演習			演習
9	感染防止技術の基礎知識、標準予防策、感染経路別予防策			講義
10	感染防止の技術（手洗い、ガウンテクニック、マスク、エプロンなど）			デモンストレーション、練習
11	洗浄・消毒・滅菌、無菌操作			講義
12	無菌操作のデモンストレーション、練習			デモンストレーション、練習
13	無菌操作の演習（1）			演習
14	無菌操作の演習（2）			演習
15	睡眠・休息の基礎知識、睡眠障害のアセスメント、睡眠・休息の援助			講義・GW
教科書				
系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 看護がみえる Vol.1				
評価方法・基準				
<ol style="list-style-type: none"> 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 筆記試験は 60 点、実技試験は 40 点を合わせて 100 点満点とする。 ただし、筆記試験・実技試験ともそれぞれ 6 割以上を合格とする。 				

授業科目名	基礎看護技術 援助論Ⅳ		
担当講師			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	看護師
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 年次後期
目的	対象に安全な医療を提供するために診療に関連した技術について目的を理解し、身体への侵襲性の高い援助技術を習得する。		
到達目標	身体への侵襲性の高い援助技術に必要な基礎知識について理解し、倫理的配慮、科学的根拠に基づいた援助技術を身につけることができる。		
回数	授業内容	授業方法	
1	苦痛の緩和、安全確保の技術：罨法とは（温罨法・冷罨法）	講義	
2	呼吸・循環を整える技術：酸素吸入療法	講義	
3	呼吸・循環を整える技術：排痰、体位ドレナージ、吸入、吸引	講義	
4	罨法・酸素吸入・吸引、ネブライザー	演習	
5	与薬に関する基礎知識・安全確保の基礎知識	講義	
6	経口・吸入・点眼、点耳、点鼻、経皮直腸内与薬	講義	
7	注射法：皮下注射・筋肉内注射	講義	
8	注射法：注射器・アンプル・バイアル等の取り扱い（デモンストレーション含む）	演習	
9	点滴静脈内注射、静脈内注射 （点滴セットや翼状針・三方活栓の取り扱い：デモンストレーション）	講義・演習	
10	点滴静脈内注射の学内演習（1）	演習	
11	点滴静脈内注射の学内演習（2）	演習	
12	筋肉内注射・皮下注射の学内演習（1）	演習	
13	筋肉内注射・皮下注射の学内演習（2）	演習	
14	輸血管理	講義・DVD 視聴	
15	中心静脈カテーテル法 まとめ	講義	
教科書			
系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 看護がみえる Vol.1、Vol.2			
評価方法・基準			
1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。			
2. 筆記試験は 60 点、実技試験 40 点を合わせて 100 点満点とする。 ただし、筆記試験・実技試験ともそれぞれ 6 割以上を合格とする。			

授業科目名	基礎看護技術 援助論Ⅴ		
担当講師			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	看護師
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 年次前期
目的	看護を実践するためには対象の理解が基盤となる。対象の身体の状態を把握するために必要な観察力、判断力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の身体の状態を把握する目的と意義を理解できる。 2. フィジカルアセスメントの知識と技術を身につけることができる。 3. 診察、検査に伴って実施する基本的な援助技術を身につけることができる。 		
回数	授業内容	授業方法	
1	ヘルスアセスメント総論 ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント フィジカルイグザミネーションの意義と目的 フィジカルアセスメントに必要な技術	講義	
2	フィジカルアセスメントに必要な身体計測、意識レベル、MMT、瞳孔の計測等 原理原則に基づいたバイタルサインの測定方法：体温・脈拍	講義	
3	原理原則に基づいたバイタルサインの測定方法：血圧	講義	
4	呼吸器系のアセスメント：呼吸状態、	講義	
5	呼吸回数の測定、呼吸音の聴取	講義	
6	血圧測定、呼吸音聴取の実際	デモンストレーション 練習	
7	系統別フィジカルアセスメント：循環器系、腹部、その他	講義	
8	バイタルサインの測定の実際	デモンストレーション 練習	
9	検体検査、生体検査について：血液・尿・便・痰・細菌検査	講義	
10	原理原則に基づいた静脈血採血（1）	講義	
11	原理原則に基づいた静脈血採血（2）	デモンストレーション 練習	
12	バイタルサイン測定（1）	演習	
13	バイタルサイン測定（2）	演習	
14	静脈血採の実際（1）	演習	
15	静脈血採の実際（2）	演習	
教科書			
系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 看護がみえる Vol.2、Vol.3			
評価方法・基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時間数の3分の2以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験は60点、実技試験は40点を合わせて100点満点とする。 ただし、筆記試験・実技試験ともそれぞれ6割以上を合格とする。 			

授業科目名	基礎看護技術 援助論VI		
担当講師			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	看護師
単位・時間数	1単位 15時間	開講年次	1年次後期
目的	対象を理解するためには情報収集、意志伝達などのコミュニケーションを通じた関係形成が必要である。さらに対象が自ら望む姿へ変容できるよう、教育的な指導技術が求められることから、コミュニケーション技術を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護において基礎となる対象の理解や、対象との関係形成のために必要なコミュニケーション理論と技術を身につけることができる。 2. 患者教育の意義、目的を理解し、対象が自ら望む姿へ変容できるように援助するために必要な指導技術を身につけることができる。 		
回数	授業内容	授業方法	
1	医療におけるコミュニケーション	講義・演習・ミニテスト	
2	関係構築のためのコミュニケーションの基本	講義・演習	
3	効果的なコミュニケーションの実際	講義・演習	
4	アサーティブコミュニケーション	講義・演習	
5	コミュニケーション障害への対応	講義	
6	看護における学習支援	講義	
7	指導案の作成方法	講義・個人ワーク	
8	まとめ	個人ワーク評価 講義	
教科書			
系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I			
評価方法・基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時間数の3分の2以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験は100点満点とし、60点以上で合格とする。 			

授業科目名	基礎看護技術 援助論Ⅶ		
担当講師			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	看護師
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 年次後期
目的	対象の健康問題を判断し解決するために、問題解決思考に基づいた看護過程を展開する技術を習得する。		
到達目標	対象の健康問題を判断し解決するために、問題解決思考に基づいた看護過程を展開する技術を身につけることができる。		
回数	授業内容		授業方法
1	看護過程とは、看護過程の 5 つの構成要素、看護過程展開の基盤となる考え方		講義
2	看護過程の各段階：アセスメント（情報収集）		GW
	看護過程の各段階：情報の解釈、分析		
3	看護過程の各段階：全体像の明確化（関連図、統合）		講義・GW
4	看護過程の各段階：看護問題の明確化		講義・GW
5	看護過程の各段階：目標立案、看護計画立案		GW
6	看護過程の各段階：実施と評価		講義
7	看護記録の目的・意義と法的位置づけ、看護記録と実習記録		講義
8	事例に基づく看護過程の展開（1）アセスメントガイドに基づく情報の分類		講義・GW
9	事例に基づく看護過程の展開（2）情報の解釈		GW
10	事例に基づく看護過程の展開（3）分析		GW
11	事例に基づく看護過程の展開（4）関連図および全体像		GW
12	事例に基づく看護過程の展開（5）看護問題の明確化		GW
13	事例に基づく看護過程の展開（6）看護目標の立案		GW
14	事例に基づく看護過程の展開（7）看護計画立案		GW
15	事例に基づく看護過程の展開、まとめ		講義
教科書			
系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 看護がみえる Vol.4			
評価方法・基準			
1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。			
2. 筆記試験 80 点、レポート 20 点を合わせて 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。			

授業科目名		臨床看護総論 方法論 I		
担当講師				
実務経験の有無		有・無	実務経験内容	
			看護師	
単位・時間数		1 単位 30 時間		開講年次
				1 年次後期
目的		健康障害を持つ対象を発達段階から理解する。またどのような健康障害にも共通する経過、症状、治療、処置に応じた看護を習得する。		
到達目標		<ol style="list-style-type: none"> 健康段階・発達段階に応じた看護を実施するための基礎的知識を養う。 健康生活を支える看護の役割を理解できる。 どのような健康障害にも共通する症状、治療、処置に応じた看護を理解できる。 		
回数	授業内容			授業方法
1	臨床看護総論とは ライフサイクルから捉えた対象と家族の健康上のニーズ ・子ども・成人の理解と看護			講義
2	ライフサイクルから捉えた対象と家族の健康上のニーズ ・高齢者の理解と看護について 家族の機能から捉えた家族の健康上のニーズ ・家族の理解と健康上のニーズ			講義
3	健康状態の経過に基づく看護 健康の保持増進に向けた看護			講義
4	健康状態の経過に基づく看護 急性期にある患者の看護			講義
5	健康状態の経過に基づく看護 リハビリテーション期にある患者の看護			講義
6	健康状態の経過に基づく看護 慢性期にある患者の看護			講義
7	健康状態の経過に基づく看護 終末期にある患者の看護			講義
8	主要な症状を示す対象者への看護 ・呼吸に関連する症状を示す対象者への看護			講義
9	主要な症状を示す対象者への看護 ・循環に関する症状を示す対象者への看護			講義
10	主要な症状を示す対象者への看護 ・活動、休息に関連する症状を示す対象者への看護			講義
11	主要な症状を示す対象者への看護 ・栄養に関する症状を示す対象者への看護			講義
12	主要な症状を示す対象者への看護 ・認知や不安、コーピングに関連する症状を示す対象者への看護			講義
13	主要な症状を示す対象者への看護 ・安全、安楽に関連する症状を示す対象者への看護			講義
14	治療・処置を受ける対象者への看護と家族への看護 ・輸液療法、化学療法、放射線療法を受ける対象者と家族への看護			講義
15	治療・処置を受ける対象者への看護と家族への看護 ・手術療法、集中治療、創傷処置を受ける対象者への看護、まとめ			講義
教科書 系統看護学講座 専門分野 I 臨床看護総論 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 系統看護学講座 別巻 家族看護学 看護過程に沿った対症看護				
評価方法・基準 <ol style="list-style-type: none"> 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 筆記試験は 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。 				

授業科目名	臨床看護総論 方法論Ⅱ		
担当講師			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	看護師
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 年次後期
目的	演習を通して、基礎看護学で学んだ知識・技術・態度を統合する。		
到達目標	演習を通して基礎看護学で学んだ知識・技術・態度の統合をはかり、対象に応じた看護を実践するための基礎的能力を身につけることができる。		
回数	授業内容		授業方法
1	臨床で看護技術を提供するには 看護技術とは		講義
2	対象に応じた看護を考える:事例 1「大腿骨頸部骨折により疼痛を訴える患者の看護」		GW
3	対象に応じた看護を考える:事例 1「大腿骨頸部骨折により疼痛を訴える患者の看護」		GW
4	対象(事例 1)に応じた看護を考え、実施する(1)		演習
5	対象(事例 1)に応じた看護を考え、実施する(2)		演習
6	対象に応じた看護を考える 事例 2「脳梗塞により麻痺がある患者の看護」(1)		講義・GW
7	対象に応じた看護を考える 事例 2「脳梗塞により麻痺がある患者の看護」(2)		講義・GW
8	対象に応じた看護を考える 事例 2「脳梗塞により麻痺がある患者の看護」(3)		講義・GW
9	対象(事例 2)に応じた看護を考え、実施する(1)		演習
10	対象(事例 2)に応じた看護を考え、実施する(2)		演習
11	健康段階に応じた看護を考え計画する ・慢性疾患を抱える患者の看護		講義・GW
12	・末期がんを抱える患者の看護		講義・GW
13	健康段階に応じた看護について(1)		GW・発表
14	健康段階に応じた看護について(2)		GW・発表
15	包帯法、まとめ		講義・演習
教科書			
系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 看護がみえる Vol.1、Vol.2 看護過程に沿った対症看護			
評価方法・基準			
1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験は 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。			